

JP08-293979

[0010](7) is a keyboard, said keyboard having a send key, a receive key, a ten key, a stop key, and a register key, as well as a function key for switching among modes.

[0017] By the way, in the receive process (step S9) in the all receive mode or the select failure of reception mode, a control circuit (1) monitors for the stop key being pressed and if the stop key is pressed, sends a disconnect telephone line signal (DCN) to the sender, and then disconnects the telephone line (steps S13 and 14). Next, the control circuit (1) goes to step S15 and displays letters "Registration "YES" or "NO"" in a display section. In display, "YES" corresponds to a register key and "NO" to a stop key. When the register key is pressed, telephone number data in buffer memory is stored into dial memory (6) (steps 16 and 19). Namely, after interrupting e-mail data reception, the user checks the data received halfway. If determining that it is unwanted in the future, he/she presses the register key. Then, the telephone number, from which data is rejected is stored into the dial memory (6) and then in the select (failure of) reception mode, reception of the data may be rejected as mentioned before.

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-293979

(43) 公開日 平成8年(1996)11月5日

(51) Int. Cl. <sup>5</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
H 0 4 N 1/32			H 0 4 N 1/32	C
H 0 4 M 11/00	3 0 3		H 0 4 M 11/00	3 0 3
H 0 4 N 1/00	1 0 6		H 0 4 N 1/00	1 0 6 Z

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平7-98577

(22) 出願日 平成7年(1995)4月24日

(71) 出願人 000001889

三洋電機株式会社

大阪府守口市京阪本通2丁目5番5号

(71) 出願人 000214882

鳥取三洋電機株式会社

鳥取県鳥取市南吉方3丁目201番地

(72) 発明者 叔田 輝幸

鳥取県鳥取市南吉方3丁目201番地 鳥取  
三洋電機株式会社内

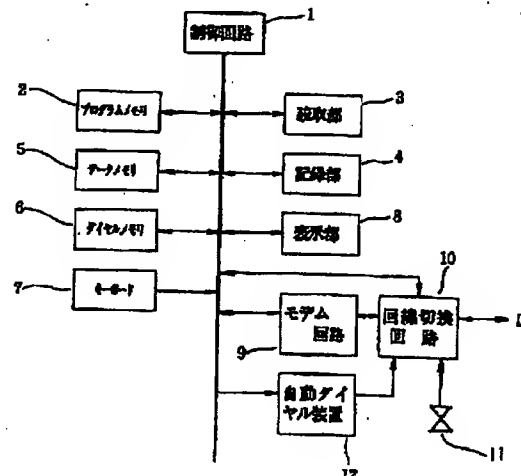
(74) 代理人 弁護士 岡田 敬

(54) 【発明の名称】 ファクシミリ装置

(57) 【要約】

【目的】 特定者からの通信を拒否する特定者通信拒否機能を有したファクシミリ装置において、通信を拒否する電話番号の登録を容易にする。

【構成】 停止キーにより受信を中断したとき、登録キーを操作することにより、T S I に含まれる送信側の電話番号データをダイヤルメモリ (6) に記憶するように構成した。



BEST AVAILABLE COPY

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 通信制御手順中に相手側装置の電話番号を識別する識別手段と、通信を中断するための入力手段と、電話番号を記憶する記憶手段と、通信制御中に前記識別手段により識別された電話番号が前記記憶手段に記憶された電話番号と一致するとき、又は前記入力手段より中断指示があったとき、通信を中断する制御手段を有するものにおいて、前記制御手段は、前記入力手段の中断指示に基づき、前記識別手段により識別された電話番号を前記記憶手段に記憶することを特徴とするファクシ 10 ミリ装置。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、特定者からの通信を拒否する特定者通信拒否機能を有したファクシミリ装置に関する。

## 【0002】

【従来の技術】 従来、ファクシミリ装置は、送信されてくる原稿等は全て受信するようにしていたため、ファクシミリ装置の家庭への普及に伴ない、ダイレクトメール 20 等の不要なものが送られてきて記録紙を無駄にするという問題があった。

【0003】 そこで、CCITT勧告30に準拠して相互通信を行なうファクシミリ装置では、送信端末識別信号（以下TSIと称す）として送信側の電話番号をASCIIコードで送信するようにしていることに着目し、予め受信を拒否する電話番号をメモリに登録しておき、送信側の電話番号がこのメモリに登録した電話番号と一致したときは、その通信を中断するようにしたものが考案されている（所謂特定者通信拒否機能）（例えば、弊 30 社出願の特願平5-234926号）。

## 【0004】

【課題が解決しようとする課題】 しかし、上記構成にあつては、ユーザー自身において、通信を拒否する電話番号をテンキーにより登録する必要がある、しかもその相手先の電話番号は、一旦ダイレクトメール等を受信した後、その受信原稿又は管理レポート等から検索しなければ分らないため、その登録操作は非常に煩わしいものであった。

## 【0005】

【課題を解決するための手段】 本発明のファクシミリ装置は、通信制御手順中に相手側装置の電話番号を識別する識別手段と、通信を中断するための入力手段と、電話番号を記憶する記憶手段と、通信制御中に前記識別手段により識別された電話番号が前記記憶手段に記憶された電話番号と一致するとき、又は前記入力手段より中断指示があったとき、通信を中断する制御手段を有し、該制御手段は、前記入力手段の中断指示に基づき、前記識別手段により識別された電話番号を前記記憶手段に記憶するようにしたものである。

## 【0006】

【作用】 本発明は、上記のようにしたものであるから、特定者からの通信を拒否する特定者通信拒否機能において、その特定者の電話番号の登録を容易に行なえる。

## 【0007】

【実施例】 本発明の実施例を図面に基づいて説明する。

【0008】 図1は、本発明を適用してなるファクシミリ装置の一実施例を示すブロック図を示し、(1)はファクシミリ装置全体を制御する制御回路で、マイクロプロセッサで構成されており、プログラムメモリ(2)に予め記憶された制御プログラムに従って各部の制御を司る。又は、制御回路(1)は読み取った送信原稿データの信号処理及び受信した信号の処理も併せて行なう。

(3)は送信原稿を光学的に読み取り、読み取った白黒データを電気信号に変換して制御回路(1)に供給する読取部であり、原稿移送機構及びイメージセンサ等で構成されている。(4)は受信信号に基づき制御回路

(1)の制御の下にサーマルヘッド等の記録ヘッドを駆動し印字を行なう記録部である。

【0009】 (5)は読取部(3)で読み取った原稿データ或は信号処理されたデータ等が記憶されるデータメモリ、(6)は受信を禁止する電話番号データを記憶するダイヤルメモリで、例えば10局分の電話番号データを記憶可能に構成されている。尚、上記各メモリ(5)(6)へのデータの書き込み及び読出しは制御回路(1)により制御される。

【0010】 (7)はキーボードであり、該キーボードは送信キー、受信キー、テンキー、停止キー登録キーの他に各種モードを切替えるためのファンクションキーを備える。

【0011】 (8)はキーボード(7)より入力されたデータ或は制御回路(1)で処理されたデータ等が表示される表示部で、液晶表示器等により構成される。

(9)は電話回線(L)に送出する信号を变調し、又電話回線(L)よりの信号を復調するモデム回路で、回線切換回路(10)に接続されている。回線切換回路(10)は、電話回線(L)にモデム回路(9)と電話機

(11)とを切換接続するリレー回路で構成され、制御回路(1)により切換制御される。又この回線切換回路(10)には、着信信号を検出することにより、着信検出信号を発生する着信検出回路が内蔵されている。(12)は自動ダイヤル装置で、キーボード(7)のテンキーを用いて入力された電話番号データに基づいたダイヤル信号を発生し、回線切換回路(10)を介して電話回線(L)に出力する。

【0012】 次に斯る構成よりなる本発明の動作につき図2に示すフローチャートに基づき説明する。まず、ファクシミリ装置の使用に先立ち、キーボード(7)を用いて受信モードを設定し、このモードはデータメモリ

(5)中に記憶される。この受信モードは、具体的に

は、TSIとして送られてくる送信側の電話番号がダイヤルメモリ(6)に記憶されている電話番号と一致する時、受信を中断する選択不受信モードと、全ての受信を受付ける全受信モードの2つのモードである。

【0013】このような状況において、自動着信処理では、制御回路(1)はまず着信の有無を判定する(ステップS1)。この判定は、回線切換回路(10)に内蔵の着信検出回路からの出力に基づいて行なう。

【0014】ステップS1で着信を検出すると、ステップS2で制御回路(1)は電話回線(L)をモデム回路(9)に接続した後、ステップS3に進み応答信号(CED)をモデム回路(9)を介して電話回線(L)に送出する。そして、次に制御回路(1)は、送信側から送られてくるTSIに含まれる電話番号データを検出し、内蔵のバッファメモリに格納する(ステップS4、5)。

【0015】続くステップS6では、データメモリ(5)中に記憶されている受信モードデータに基づいて、いずれのモードに設定されているかを判定する。この判定において、全受信モードに設定されていると判定すると、処理をステップS9に進める。このステップS9では、周知の受信処理を行なう。即ち、電話回線(L)を介して送信されてくるファクシミリ信号を、モデム回路(9)で復調し、その信号を復号化した後記録部(4)で出力するか、或はデータメモリ(5)中に格納する。この受信処理が終了したことをステップS11で検出すると、ステップS12において回線を切断した後、ステップS1に戻る。

【0016】一方、ステップS6において、選択不受信モードに設定されていると判定すると、処理をステップS7に進める。ステップS7では、バッファメモリに記憶した電話番号データとダイヤルメモリ(6)に記憶されている電話番号データと比較し、一致するものがないときには前述したステップS9に処理を進め、また、一致するものがあるときには回線切断信号(DCN)を送信側に送出し(ステップ8)、その後、ステップS12において回線を切断する。

【0017】ところで、全受信モード又は選択不受信モ

ードの受信処理(ステップS9)において、制御回路(1)は停止キーの操作を監視しており、もし停止キーが操作されると、回線切断信号(DCN)を送信側に送出し、その後、回線を切断する(ステップS13、14)。そして、ステップS15に進み、表示部(8)に“登録「YES」「NO」”なる文字を表示する。この表示中において、「YES」は登録キー、「NO」は停止キーに対応しており、登録キーが操作されるとバッファメモリの電話番号データをダイヤルメモリ(6)に格納する(ステップS16、19)。即ち、ユーザーが受信を中断した後、途中まで受信した原稿を見てこれに関するものは今後も不要と判断すれば、登録キーを操作することにより、受信を拒否する電話番号がダイヤルメモリ(6)に格納され、その後、選択受信モードにあつては前述したようにその受信を拒否することができる。

【0018】尚、停止キーが操作されれば、ダイヤルメモリ(6)に電話番号データを格納することなく、待機状態に戻る。又、いずれのキーも操作されないまま、5秒経過した場合も同様に、ダイヤルメモリ(6)に電話番号データを格納することなく、待機状態に戻る(ステップS17、18)。

【0019】

【発明の効果】本発明は、上記のように、特定者からの通信を拒否する特定者通信拒否機能において、その特定者の電話番号の登録を容易に行なえるようにしたものであるから、使用相手のよいファクシミリ装置を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明のファクシミリ装置の一実施例を示すブロック図である。

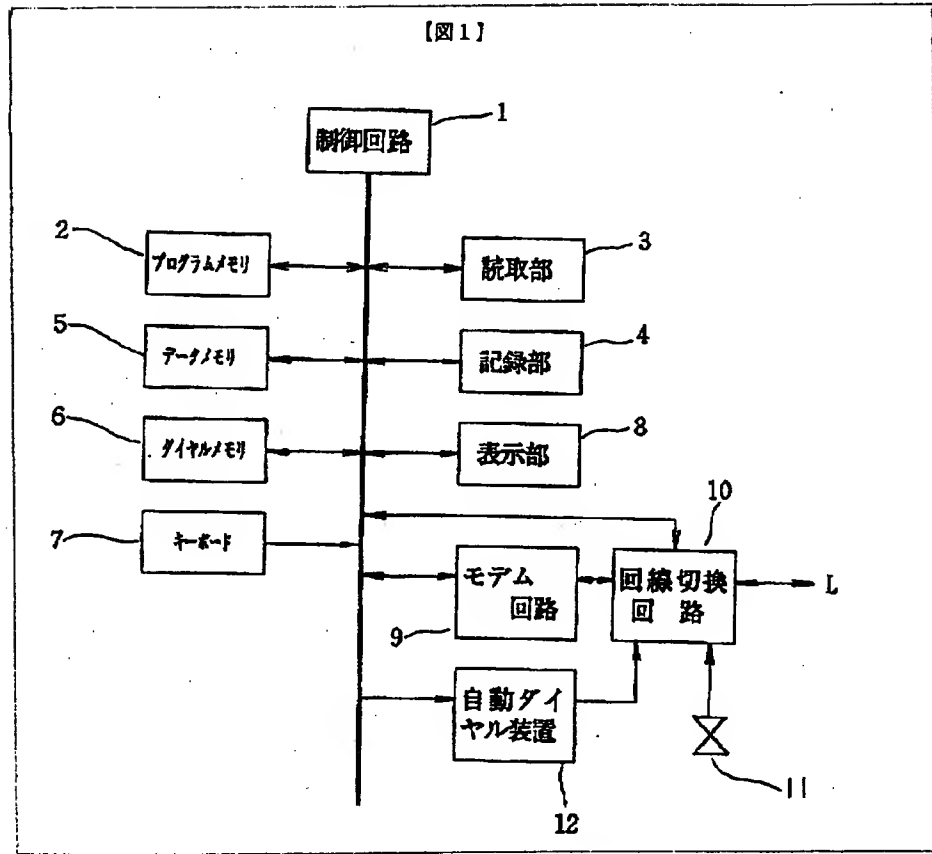
【図2】本発明のファクシミリ装置の着信時の動作を説明するためのフローチャートである。

【符号の説明】

- 1 制御回路
- 5 データメモリ
- 6 ダイヤルメモリ
- 7 キーボード
- 8 表示部

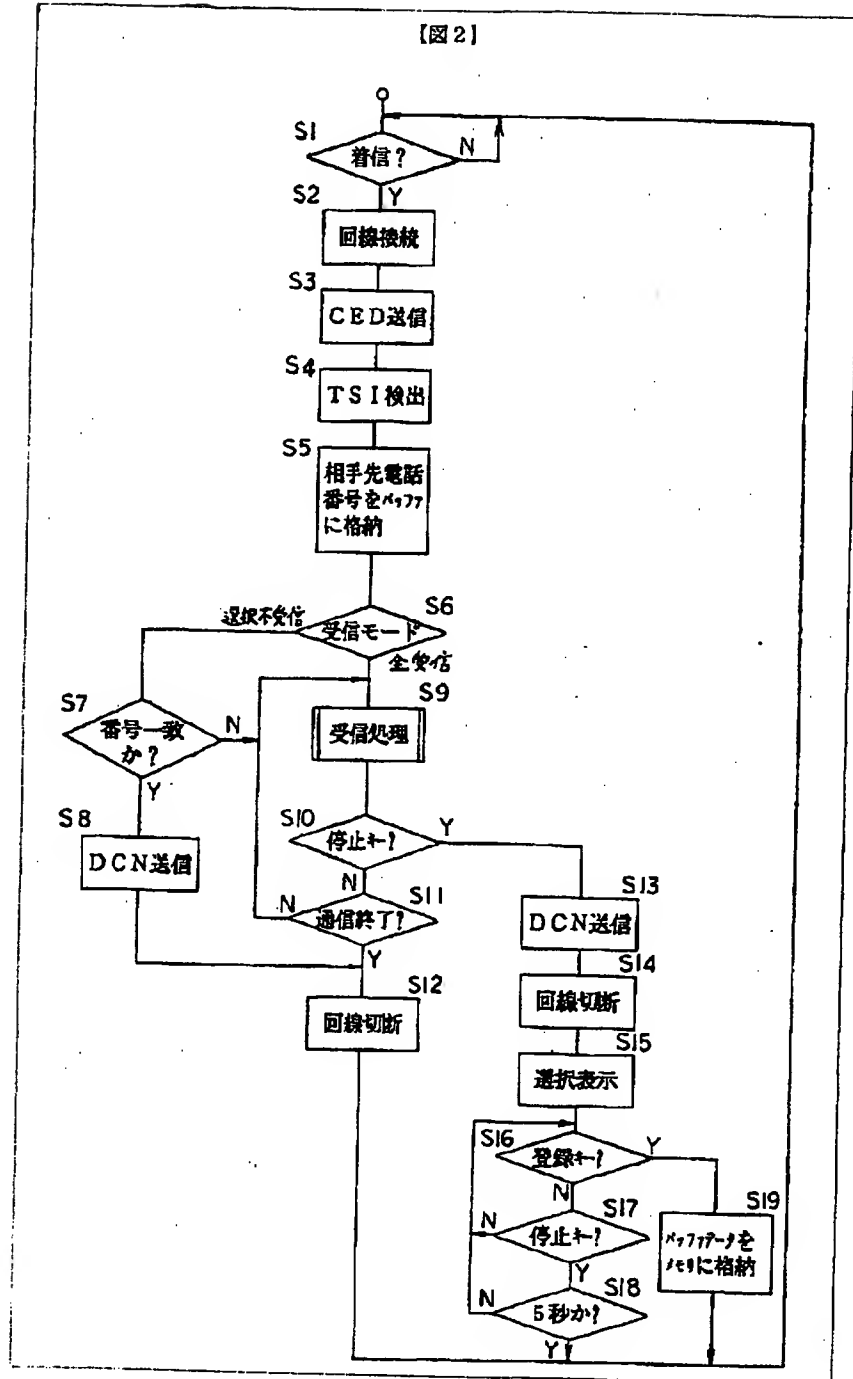
BEST AVAILABLE COPY

【図1】



BEST AVAILABLE COPY

【図2】



BEST AVAILABLE COPY